

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

令和 3 年 (2021)

皇紀 2681 年

新型コロナ禍 早期熄滅退散祈願!!

令和 3 年 新春号【第119号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

年頭所感	2・3 頁
新春初詣	4・5 頁
早春の行事	6・7 頁
杜の話題	8～10頁
第7回フォトコンテスト入選作品発表…	11頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	12・13頁
正月社頭ガイド (HP・Instagram)	14頁



古神矢・古神札焼納祭（とんど焼き）令和3年1月15日

令和3年辛丑歳の新春に当たり
謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と
氏子・崇敬者各位のご清福を熟禱申し上げます

宮司 鎌田 紀彦

昨年は世界中が中国・武漢発の新型コロナウイルス感染症の大流行により東京オリンピックもパラリンピックも本年に延期されました。全国各地の催事・行事が中止となり、景気も落ち込み第3波が襲来。医療崩壊が心配されるうちに越年となり暗い一年でありました。

その様な中での朗報は、11月1日、明治神宮鎮座百年祭が斎行されたことであります。

祭典は午前10時より、内拝殿には名誉宮司、役員総代、同神宮崇敬会会長、神社本庁総務、神宮大宮司をはじめ、神社関係者らが参列。畏き辺りよりの幣帛を納めた辛櫃を奉持して、宮司以下神職が内拝殿に進進。先ず宮司一拝のあと、開扉、神饌及び神社本庁幣が奉られました。次に天皇陛下よりの幣帛を、宮司が神前に奉り祝詞奏上。今年鎮座百年を迎えた事を神前に奉告するとともに、新型コロナウイルス感染症の終熄をも祈念。次に宮内庁式部職業部(楽友会)楽師による「東游」の奉奏があり、続いて鎮座百年を記念して、新しく創作された神楽「常久の舞」が初めて巫女4人により奉納されました。この舞は

明治天皇御製

『うつせみの代々木の里はしづかにて

都のほかのここちこそすれ』

に曲と舞を創作したものです。

続いて宮司玉串拝礼。次いで内拝殿の参列の代表者が各々玉串拝礼。(小生も招かれ外拝殿に参列させていただき、永きご神縁に感謝した次第であります)

明治天皇御誕生日の11月3日には、勅使参向のもと例祭が斎行され、夕方からは「鎮座百年大祭御神楽の儀」が執り行われました。

明治神宮御苑のこと

明治神宮は、大正9年11月1日に創建されました。

明治45年7月30日に、明治天皇、大正3年に昭憲皇太后が崩御され、明治天皇を追慕する気運が高まり、奉祀神社建設の請願運動が全国的に拡がり、候補地が39カ所に及んだと言われています。

明治天皇との縁故の深さから、代々木御料地(南豊島御料地)が、神域としてふさわしい環境と景観を備えているのでこの地に決定されました。この敷地は以前、熊本藩主加藤家の別邸でありましたが、寛永17年3代将軍家光公がこの地を彦根藩主井伊家に与えました。

この井伊家の土地は明治6年上地(国に返還され、後に払い下げられ、明治17年宮内省に買い上げられて御料地となりました。御料地時代、明治30年の頃、このうち庭

園部分を皇后陛下の散策の地として改修されました。この改修については、明治天皇御自ら苑路の位置、花菖蒲の植栽、八つ橋の架橋、お釣台、清正井、御休所(隔雲亭)の建築など、こまごまと指図されたと伺っております。「明治神宮御苑」は、現在常時公開されています。因みに隣の代々木公園は当時代々木練兵場でありました。

ご夫婦愛の実った御苑。ご祭神のご聖徳をお偲びするに相応しい聖域でもあるのです。

御親拝のこと

10月28日天皇皇后両陛下は、明治神宮に行幸啓になり御親拝あそばされました。同日には上皇皇后両陛下も御参拝されたのち、明治神宮ミュージアムを御高覧になりました。秋篠宮皇嗣同妃殿下にも御参拝になりました。

尚、鎮座百年にあたり天皇皇后両陛下より御製・御歌を、秋篠宮皇嗣同妃殿下はじめ八方の皇族殿下よりお歌が献詠されました。

また天皇皇后両陛下並びに上皇皇后両陛下より、各々明治天皇御物(2点)が明治神宮に御下賜あそばされております。

今上陛下御製

『百年の世のうつろひをみまもりし

御社は建つ 明治の杜に』

立皇嗣の礼

延期になっていました「立皇嗣の礼」が11月8日に執り行われました。

秋篠宮文仁親王殿下が皇嗣になられたことを、広く内外に宣明される「立皇嗣宣明の

儀」が、皇居正殿「松の間」にて午前11時より執り行われました。皇嗣殿下には黄丹袍を召され、小桂・長袴を召された皇嗣妃殿下を伴われて正面に向かって左の座に著かれました。その後、天皇陛下は黄櫨染御袍を召され、皇后陛下には御桂と御長袴姿で続かれ、正面の御座に著かれ、天皇陛下より宣明の儀のおことが述べられました。

続いて皇嗣同妃両殿下には、正面に進まれ一礼ののち皇嗣殿下より答礼があり、菅内閣総理大臣が寿詞を述べられました。両陛下御退出ののち、両殿下には参列者に一礼されご退出になりました。

各皇族の他、三権の長や地方自治体、外交団代表等が参列。次いで11時30分、宮殿「鳳凰の間」にて、天皇陛下より皇嗣殿下に「壺切御剣親授」が執り行われました。尚、諸儀式に先立ち、天皇皇后両陛下には「賢所皇靈殿神殿に親告の儀」を執り行われました。

また、黄丹袍姿の皇嗣殿下には「壺切御剣親授の儀」ののち、小桂・長袴姿の皇嗣妃殿下を伴われ宮中三殿で「賢所皇靈殿神殿に謁するの儀」に臨まれました。

午後には皇嗣殿下が天皇皇后両陛下に御礼を申し上げられる「朝見の儀」が、正殿「松の間」で執り行われました。

さらに伊勢神宮及び奈良畝傍山東北陵(神武天皇山陵)、武蔵野陵(昭和天皇山陵)には、各々勅使が差し遣わされました。

コロナ禍での「立皇嗣の礼」が無事執り納められ、一昨年より続く一連の皇室の御佳事を無事済まされ、誠に喜ばしく欣快の至り存ずる次第であります。

尚、当宮では11月9日、神職のみで「立

皇嗣の礼奉祝祭」(中祭式)を斎行させていただきます。

響け世界平和を祈る鐘の音!!

国連が定めた国際平和デーの令和2年9月21日正午、港区の大本山増上寺鐘樓前広場に於いて鐘打式が開催され、小生も世界連邦日本宗教委員会(会長田中恒清)より御縁を戴き出席させていただきました。

昨年は『国連創設75周年』の節目年に当たることから、「国際平和デー日本委員会」が組織され行事を企画。特に世界中が新型コロナウイルスによる危機に直面していることから今こそ世界が連帯すべき時と、参加者は鐘の音とともに世界の国々が連帯して、平和の構築に尽力することを祈念いたしました。式典には三笠宮彬子女王殿下が臨席され、小池百合子東京都知事らが出席。正午に合わせて彬子女王殿下が第一打を鐘打され、その後、千玄室・日本国際連合協会会長、小池百合子東京都知事、東久邇吉子・世界連邦文化教育推進協議会会長等1



(中外日報社提供)

組4名ずつの鐘打が続き、小生もその内の1名として鐘打させて頂きました。参加者は、各会各派の垣根を越え、鐘の音に乗せて世界の平和と世界の国々の連帯を祈念致しました。協力会場となった10カ所のほか全国の社寺、教会、公園で鐘や太鼓が打たれ、当宮の社頭でも太鼓を打ち鳴らしてお祈り致しました。

国連創設75周年

昨年、国際連合創設75年を迎え、節目の国連総会が開催されました。

『第二次世界大戦終結直後の昭和20年(1945)10月24日に生まれた国連は、「国際の平和と安全の維持」が第一の目的、その責務を担う最重要機関が安全保障理事会である。

東西冷戦はもとより、その後の地域や民族、宗教をめぐる紛争、大量破壊兵器の拡散、国際テロリズムなどの脅威の前に安保理がその役割を果たしてきたとはいえない。その「機能不全」が指摘されながら抜本改革が手つかずなのは極めて遺憾である。安保理が抱える最大の問題点は、大戦の戦勝国で核保有国でもある米英仏中露の5大国が常任理事国を占め、拒否権を独占してきたことだ。(省略)

当初の51カ国から加盟国が193カ国に増えた国連は戦勝国の発想から決別すべきときを迎えている。

日本が国際秩序を守る範を示し、平和を維持する重責を担っていくなら、そのこと自体が国連改革を促すことになる。更に日本の常任理事国入りに意欲を表明しては、挫折を繰り返してきた課題

だが、あきらめてはならない。』

令和2年(2020)9月26日産経新聞、主張「戦勝国の発想」と決別をより転載いたしました。

万系一世の皇室を仰ぎて

昨年は日本書紀撰上1300年の年でもありました。日本書紀(巻3)に初代神武天皇即位の日(日本の建国)2680年前の神話に基づく国の誕生日の事が書かれています。

『辛酉年春正月庚辰朔、天皇橿原宮(即帝位)』

建国の理想は神武天皇建国の詔にあるように、

『然て後に、六合を兼ねて都を開き八紘を掩ひて宇と為むこと、亦可からずや』

謂ゆる八紘一字の考え方で、一つの屋根の下で多民族も仲良く暮らしていこうと人々の絆を強調し、日本人の団結力の源泉でもあります。謂わば国連憲章の理想に相通ずるものがあります。

『いやしくも民に利有らば いかによ聖の造に妨わん』と常に国民の幸福を願われ天皇の任務として国民を大御宝と皇室の国民観を示されて来ました。天皇(皇室)の最重要任務は祭祀にあります。皇祖の神々を祀り、常に『国安かれ 民安かれ』と祈

られ、国民を大御宝として 吾が児の如くいつくしみ、情愛をほどこされているのであります。歴代の天皇の一貫した責務、不断の掟であり、不滅の伝統に他なりません。それ故に、日本国民は神武天皇以来126

代(2681年)に亘る歴代の天皇陛下を国家の中心として戴くことを喜びと誇りとして有難く思い、心より敬愛し仰慕し忠誠を尽くして参りました。

2月11日の建国の日(紀元祭)は、この世界に比類なき日本の国の有り方に、深く想いを致し祖国の永久を祈る日でもあるのです。立憲君主国として世界の国々より、羨望の眼差しで尊敬されているわが皇室を仰ぐ私共は、誇りを持って「神武建国」を語り、2月23日の天皇誕生日(天長祭)をお祝い致そうではありませんか。

年越しから新年を迎えるに当たり、新型コロナウイルスの熾滅退散を祈ると共に、まずもって医療関係者、福祉関係行政の方々へ、表参道第二鳥居の大石燈籠にブルーライトの照明をあて、感謝致したいと思えます。今年の干支は辛丑で新しく活動し始める事を示唆しているといわれています。まずはコロナ禍が祓い清められ、終熄の兆しが見えはじめて外に眼を向けますと、今わが国は、国土や国益が他国によって侵略されかねない局面にあります。建国の歴史と皇室を戴くことを誇りと精神的支柱として、連帯感を強くもって事に当たれば、国難は必ずや乗り越えられると思っております。

明治天皇御製

『よもの海 みなはらからと思ふ世に
など波風のたちさわぐらむ』

令和3年の新春に当たり、本年も八幡大神様の御心に沿い奉る様な神明奉仕の生活をしていくべく、誓いも新たに致しているところであります。

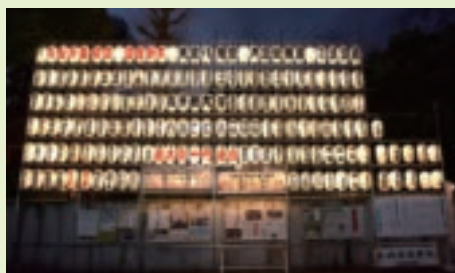
(令和2年12月8日記)



新春除魔神事「墓目の儀」

新春献燈提灯奉納のご案内

新春の期間、1月1日～2月2日まで、皆様のお名前を入れた献燈提灯を掲出させていただきます。新型コロナウイルスのなか、世の中が少しでも明るくなるように祈念してご社頭を賑々しくお飾りします。



令和3年は、元旦午前零時に宮司の打ち鳴らす初太鼓の音で幕開けとなります。引き続き拝殿内では、**新春厄除開運初大祈願祭**（一番祈禱）が宮司奉仕により斎行され、次いで新春初祈願祭が2月2日の節分まで奉仕されます。明けて午前7時、**歳旦祭**併せて**新型コロナウイルス禍焼滅退散祈願**を斎行。

2日午前10時、ご宗家小笠原清忠氏率いる小笠原一門により**小笠原流新春除魔神事、墓目の儀・大的式**が奉納されます。新春のご社頭から「ヒュー」という墓目鳴鑼矢の霊妙な音に依って魔障を退散させるのに併せて、新型コロナウイルスの早期焼滅退散を祈念して奉仕されます。

3日午前9時、皇位の太元を寿ぐ**元始祭**を斎行。このようにして大宮八幡宮の一年が始まるのです。



明けましておめでとうございます
令和三年 辛丑歳正月 二日 小笠原流除魔神事 墓目の儀・大的式

令和3年 新春の祭典と主な行事

1月1日	新春厄除開運初大祈願祭（一番祈禱） 歳旦祭併せて新型コロナウイルス禍 焼滅退散祈願
1月2日	小笠原流墓目の儀・大的式
1月3日	元始祭
1月7日	昭和天皇祭遙拝
1月15日	古神札焼納祭（とんど焼き）
1月25日	初天神祭「大宮天満宮」
1月26日	文化財防火デー消防演習
2月2日	節分祭
2月3日	初午大祭「大宮稲荷神社」
2月11日	紀元祭
2月23日	天長祭
3月春分	春季皇霊祭遙拝
3月下旬 4月上旬	大宮八幡桜まつり
4月3日	神武天皇祭遙拝・本宮遙拝
4月29日	昭和祭・春の弓道奉納射会
5月3日・5月5日	大宮八幡宮わかば祭り（春の大祭）
第一日ノ儀 こどもの祭り・稚児行列（3日） 第二日ノ儀 植樹祭（苗木配布）（4日） 当日祭（尚武祭）（5日）	
5月8日	裏千家献茶式
5月16日	御嶽様名神社例祭「御嶽様名神社」
6月3日	神功皇后祭
毎月1日	朔旦祭（じなたでもし自由）
毎月15日	月次祭（ご参列出来ず）
毎月25日	大宮天神月次祭

毎月・お朔日参りを致しましょう

謹賀新年 令和三年元旦

大宮八幡宮

代表役員 宮司 鎌田 紀彦

責任役員

藤枝 誠友
内山 宏章
瀬沼 恭章
玉村 憲章
鈴木 哲男
末柄 哲男

議長 丸山 俊光
葉梨 俊郎

監査 笠原 紀一
瀬沼 修三

総代 大宮地区

荒井 昭一
古屋 進一
五本 勝
末柄 哲男
根岸 政明

方南南地区

三枝 治太郎
丸山 光男
齋藤 恵一
内山 誠一
山崎 政義
相川 雄一

方南北地区

岩崎 太良
齊藤 美夫
鈴木 憲章
岩田 一豊
細野 修三

和田東地区

梅田 清彦
横尾 信彦
佐野 晃央
岩船 守一
笠原 紀一
玉村 恭男

和田西地区

藤枝 宏友
豊田 麗子
森川 純一
池田 鐘司
葉梨 俊郎
春原 功典

松ノ木地区

太田 正男
瀬沼 宏章
瀬沼 敏之
井島 邦夫
松川 穰
小川 次郎

大宮八幡宮敬神婦人会

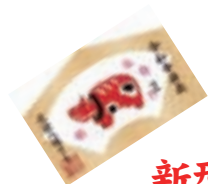
会長 鎌田 民枝

大宮八幡宮氏子青年会

会長 井川 邦夫

兼務神社総代会長

堀ノ内熊野神社
成宗白山神社
岩田 和保
尾崎熊野神社
安藤 雄次



令和3年 幸せ祈る初詣

新型コロナウイルス感染症対策にご理解とご協力を



新春を迎え、当宮に初めてお詣りされる日があなたの初詣!!(三が日を避けて分散型の初詣にご協力下さい。)
尚、新春初祈願祭は二月二日の節分までご奉仕致します。

境内・授与所では

お出かけ前に検温、マスクの着用をお願い致します。

手水舎では、流水での手水をお願い致します。

お札、お守りは例年の通り授与所でお頒ち致します。
ご朱印は書き置いたものをお渡し致します。

振る舞い酒は中止致します。

拝殿前混雑緩和のため、「一方通行」にご協力ください。

職員はマスクを着用させていただきます。



手水舎

ご祈禱・昇殿参拝では

受付

受付所には、窓口に透明シートを設置致しました。
また、受付後の検温にご協力ください。
昇殿前の手水は行わず、手指の消毒を以てこれに代えさせていただきます。

拝殿へ

臨時の参列席を増設致しました。適度な間隔を保ちながら、例年同様のご昇殿が可能です。
暖房機を稼働させますが、通気をよくするため、ご社殿の窓を開放させていただきます。

祈願祭

ご社殿内での時間を短縮するため、巫女舞は省略致しますが、大御恵をお頒ちする「息長の鈴による鈴振り神事」は行います。
また、多くの方が手を触れる玉串は使用せず、皆様には一緒にご拝礼頂きます。

お札・直会

ご神札・ご神饌のお渡し所では、混雑を避けるため、職員の誘導にご協力をお願い申し上げます。
ご予約参拝以外、お札にお名前は入りません。

ご祈願祭後の清涼殿での直会是不行いますので、ご神饌としてお渡しするご神酒を、ご自宅で拝戴ください。



臨時参列席



鈴振り神事



ご神札・ご神饌お渡し所

大宮八幡宮の大神様のご加護を戴いて、
健康で明るい1年となりますようお祈り申し上げます。

大宮八幡宮

早春の行事

新春恒例の除魔神事、 墓目の儀・大式的

ひきめ おおまじき

1月2日午前10時には、年頭にあたり恒例の弓の除魔神事である墓目の儀・大式的が、ご宗家始め小笠原流一門の方々により奉納されます。墓目という墓蛙に似た鎧を矢先につけた矢を射ると、鋭い風切り音で魔障が退散すると言われています。大式的は、1500年前、清寧天皇の御世に射を行ったとの日本書紀の記述に基づく、公家・武家に伝わる重儀で、いずれも当宮の新春の恒例の天下泰平・国家安泰を祈念する弓始めの神事です。特に今年は新型コロナ禍滅退散が祈念されます。



古札焼納祭(とんど焼き)斎行

1月15日は小正月の伝統行事、古神矢・古神札焼納祭(とんど焼き)が斎行されます。古くは宮中で小正月に清涼殿東庭で古書を焼く左義長の儀式が行われた故事に基づき、社殿にتماず睦月

次祭に併せて焼納奉告祭が行われ、続いて午前11時半より拝殿前特設斎場にて焼納祭を斎行。参拝者の皆様がお納めになった古神矢、古神札、守札、注連縄等が斎場に積み上げられ、古式に則り火鑽神事が行われ、熾された浄火により点火。燃えさかるお焚き上げの忌火の前に宮司以下神職が大祓詞を奏上して、参列の皆様を始め氏子崇敬者各位のこの一年の除災招福を祈ります。また境内では、当宮敬神婦人会(りんどう会)により「厄除せんさい」が浄火によって炊かれ、振る舞われます。



とんど焼きにご協力をお願い

ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生の恐れのあるもの(プラスチック製品等)・包装紙は、その場でお持ち帰り頂いております。◆お守り・古神矢・古神札類(他の神社のもの)及び正月飾りのみお預かり致します。◆人形類は、別途(社殿におきまして)人形感謝祭を斎行してからお納め頂きますので、直接祈願受付所へお申し出下さい。但し、ぬいぐるみはお預かり出来ません。

大宮天満宮初天神祭



1月25日午前10時より初天神祭が斎行されます。学問の神様である菅原道真公に学業成就・技芸上達を祈願します。また、香りも豊かな「梅ヶ香御守」が社頭にて特別に授与されます。

成人奉告祭ご案内

新年を迎え新たに成人したことをご神前に奉告し、神明の御加護のもと社会の一員としての自覚を新たに成人奉告祭を随時ご奉仕しています。ご祈願の新成人の皆様には宮司揮毫の干支絵馬を特別授与いたしております。新成人の皆様のご参拝をお待ちしております。

コロナ禍も退散！節分祭 本年は2月2日に(124年振り)

立春の前日の節分は四季の変わり目で特に重視されてきました。起源は中国より渡来した悪疫邪気を追い払う追儺行事と言われ、今から1300



新春初祈願祭のご案内

元旦の午前零時、その年最初の祈願祭である「新春厄除開運初大祈願祭(一番祈禱)」が宮司奉仕により執り行われます。この祈願祭は、予め予約申込をいただいております。引き続き午前1時より新春の年頭に当たり氏子・崇敬者の皆様の新しい年のご繁栄をお祈りする新春初祈願祭を行っております。ご家庭や職場の皆様のご祈願に際して、2月2日の節分まで随時ご祈願祭をお受けしております。



新春初祈願祭の受付時間

また左記の時間の祭典及び、新春奉納行事などの参拝の際は終了までお待ち頂く場合がございますので、詳細は社務所までお尋ね下さい。

1月1日午前7時 歳旦祭
1月3日午前9時 元始祭
1月15日午前10時 月次祭

企業団体の祈願祭も

企業・団体様の仕事始めに合わせて、更なるご発展を祈る祈願祭もご奉仕しております。祈願祭には代表様・従業員の皆様お揃いでご昇殿頂きます。ご祈願を受けられ清々しい仕事始めと致します。

新春初祈願祭に限り、社頭の申込書に必要事項をご記入の上、事前申込み頂きます。

※新春初祈願祭では事前申込みの方のみご神札に、祈願名と代表者名を浄書させて頂きます。

年ほど前の続日本紀文武天皇の御宇に記述が見られます。当宮では宮中の例に倣い桃弓・葦矢で「天・地・人」に潜む魔を射る**卯枝神事**に引き続き社殿前にて宮司により妖魔を祓う**鳴弦の儀**が行われます。その後鬼のお面をつけた当宮幼稚園園児が参加して行われる**豆撒き神事**も微笑ましい節分の行事として親しまれています。尚、当宮の豆撒き神事は、まず園児を対象に行い、次に一般の方々を対象に2回にわけて執り行います。

大宮稲荷神社初午大祭

本年は2月3日に

大宮稲荷神社**初午大祭**が2月3日午後1時より斎行されます。約1300年前の和銅4年の初午の日に京都伏見の峰に稲荷大神が降臨



初午のぼり奉納募集

お稲荷様は、商売繁盛・家内安全のご利益のある神様です。本年も、左記により商売繁盛・家内安全等を祈願する「朱色のぼり」を大宮稲荷神社のご社頭に奉納賜りますようお願い致します。

一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円

(出来れば「対」二口以上でお願い致します)のぼりには、ご氏名(又は会社名)を入れさせていただきます。



された故事により全国の稲荷神社で斎行されます。百数十本の鮮やかな朱色の**初午のぼり**が立ち並ぶなか、のぼり奉納者・崇敬者参列のもと祭典が斎行されます。尚、当社には、全国唯一の姉妹友好神社である宮城県岩沼の竹駒神社が合祀されております。また、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社、境外社の谷中稲荷神社でも執り行われます。

紀元祭並びに檀原神宮巡拝



2月11日は建国記念の日(紀元祭)で、全国各地で我が国の建国を言祝ぐ諸行事が行われます。皇紀2681年の本年、当宮では午前10時より**紀元祭**が斎行され、皇室国家の繁栄・国運の隆昌と世界の平和をご祈念申し上げ、引き続き清涼殿2階の特設斎場で神武天皇をお祀りする**檀原神宮を巡拝**します。

天長祭

2月23日、天皇陛下の御誕生日をお祝いし、御長寿並びに皇室の弥栄、国民の平安をお祈りする**天長祭**が斎行されます。



大宮八幡桜まつり

3月下旬から4月上旬にかけて、大宮八幡宮を中心とする和田堀公園(旧境内)一帯には善福寺川沿いの数千本の桜が一斉に咲き誇ります。期間中の土曜・日曜は午後8時まで開門し、「**大宮八幡桜まつり**」を開催。夜間参拝と桜満開の和田堀公園への通り抜けができます。



勸学祭・ランドセルお祓い

小学校への入学は格別に印象深い人生の節目です。子育て八幡様のご加護を戴き6年間の学校生活の充実と交通安全を祈願して、これから毎日背負う

ランドセルをお祓いします。小さい背中中に大きなランドセルを背負って歩く新一年生の姿は可愛らしく頼もしいものです。



新春厄除祈願祭のご案内

厄年は、古来人生の節目として特に気をつけなければならぬとされている年回りです。厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

令和3年厄年表(数え年)

男	前 厄	大 厄	後 厄
	平成10年生(24歳) 昭和56年生(41歳) 昭和37年生(60歳)	平成9年生(25歳) 昭和55年生(42歳) 昭和36年生(61歳)	平成8年生(26歳) 昭和54年生(43歳) 昭和35年生(62歳)
女	前 厄	大 厄	後 厄
	平成16年生(18歳) 平成2年生(32歳) 昭和61年生(36歳) 昭和37年生(60歳)	平成15年生(19歳) 昭和64年生(33歳) 平成元年生(37歳) 昭和36年生(61歳)	平成14年生(20歳) 昭和63年生(34歳) 昭和59年生(38歳) 昭和35年生(62歳)

※大厄の前年は前厄、後年は後厄にあたります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

杜の話題

立皇嗣ノ礼奉祝祭

天皇陛下

が秋篠宮文仁親王殿下の立皇嗣を国の内外に宣明される立皇嗣の礼が11月8日に皇居、「正殿松の間」にて行われました。当宮では、翌9日午前10時より立皇嗣ノ礼奉祝祭を神職のみで斎行致しました。



大宮八幡祭り（秋の大祭）

春先より蔓延し国内全域に猛威を振るい続けている新型コロナウイルス感染症は、第一波、第二波、第三波と勢いが止まりません。このような中、大宮八幡祭り（秋の大祭）は、9月15日午前10時より例祭併せて氏子奉幣祭が責任役員・総代、神社関係者の参列により斎行されました。神事では、神社本庁より幣帛の献幣、献幣使小野貴嗣東京都神社庁長の祭詞奏上に続き、氏子幣の奉供、氏子奉幣使内山誠責任役員の氏子祈願詞が奏上され、皇室と国家の



手により約1300基の竹燈籠に火が点され、仲秋祭が斎行されました。神楽殿では、雅楽の演奏と神楽浦安の舞

10月3日、第20回十五夜の神遊びが斎行されました。夕刻、神社関係者の手により約1300基の竹燈籠に火が点され、仲秋祭が斎行されました。神楽殿では、雅楽の演奏と神楽浦安の舞

第20回 十五夜の神遊び・月の音舞台



八幡太郎義家公御尊像を拝礼

宮入の中止を始め多くの神賑行事が取り止めとなる中、新型コロナウイルスの終息退散を祈念して、小笠原ご宗家により三三九手挟式が奉納されました。また20日には、若宮八幡神社・白幡宮例祭が斎行され、終了後に清涼殿貴賓室にて、一昨年奉納された「八幡太郎義家公御尊像」に拝礼致しました。

の奉奏。次いで月の音舞台として、尺八奏者き乃はち氏による新型コロナウイルス滅の祈りを込めた奉納演奏となりました。



神嘗祭遥拝

神嘗祭は、伊勢神宮で、その年に収穫された新穀を天照大神に捧げる重儀です。10月17日当日は雨儀の為、外拝殿特設遥拝所より神宮を遙拝しました。



教育勅語渙発

130周年記念祭

我が国の教育方針を明らかにするため明治23年10月30日、教育勅語が渙発されました。当宮では中祭式にて当日午前10時より、教育勅語渙発130周年記念祭を斎行致しました。



祝詞奏上後、宮司以下祭員、参列者全員で教育勅語を奉読致しました。

神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式

11月5日、

初春を迎えるにあたり氏子崇敬者・立正佼成会会員の方々にお頒ちする神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式が斎行されました。藤枝宏友責任役員総代及び兼務神社役員、また立正佼成会神札頒布責任者の小松茂登子様のご参列のもと、ご神前に於いて神宮大麻や各氏神大麻、大宮三宝荒神などの神札類の頒布始めを大神様に奉告後、各ご代表に授与されました。また、12月中旬には神職が各ご家庭にお伺いして神宮大麻、氏神様のお札、三宝荒



右 お伊勢様のお札
中 氏神様のお札
左 三宝荒神のお札

新穀を大神様にお供えし一年の収穫を感謝する新嘗祭が11月23日午前9時より、宮司以下祭員奉仕により大祭式にて執り行われました。責任役員、総代、りんどう会役員、氏青役員他の参列のもと斎行され、当宮幼稚園園児らが、園内の稲田で田植えや稲刈りをして丹精込めて育てた初穂や、サミット(株)J A東京中央



庭積机代物

秋の美りに感謝 新嘗祭

い神札をお祀りして清々しい令和3年を迎えましょう。

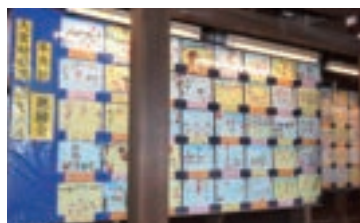


神様の御神札をお頒ちしております。ご希望の方は当宮社務所もしくはお近くの当宮責任役員・総代にお尋ね下さい。各ご家庭や会社の事務所の神棚に新しい

10月4日、神奈川県知事黒岩祐治様がお孫さんの七五三・初宮詣で来宮されました。ご一家お揃いのご参拝で、お孫様方の健やかなご成長を祈念されました。

黒岩知事 お孫さんの七五三と初宮詣に

大宮幼稚園年中組の園児たちの「運動会」をテーマにした108点の作品が、神門南側回廊に11月1日より12月1日まで展示されました。時折、母親に手を引かれ、自分たちの作品を確認する為に見学に訪れる園児の姿が見受けられました。



大宮幼稚園園児画展



セレモニーセンターなど、氏子崇敬者の篤志家の方々が献納された穀物や野菜果物などが庭積机代物として大前に献じられました。

令和御大典奉祝記念 内拝殿大太鼓の皮張替

毎朝開門に合わせて打ち鳴らされる内拝殿の大太鼓は、85年前の昭和10年(1935)9月に、当時方南町にお住いの8名の有志の方々を発起人として奉納されました。

太鼓の造りはしっかりしているものの、85年を経過すると、皮が薄くなって響きが悪くなり、胴の表面が荒れ、また太鼓を載せている台座の木組み部分にも緩みが出てきました。この度、令和の御大典を奉祝して皮の張替が計画され、令和2年7月10日に浅草の宮本卯之助商店(製造元)に修理を依頼、9月2日に納品され、9月15日の例祭に間に合わせることが出来ました。

張替えられた黒毛和牛2頭分の両面の皮は響きも素晴らしく、胴は非常に良い材料(国産ケヤキ、くりぬき銅)を使っているため職人さんが磨いただけで、さながら新品のような艶が出て、金具も同じようにきれいになりました。制作にあたられた当時の職人

さんが品質に自信ありとした証である「大彦」の「太鼓判」が焼印されています。また、台座は彫刻と彩色(獅子と牡丹)が施された非常に珍しいものとなっています。

令和3年元旦零時には、宮司がこの大太鼓で新春を告げる初太鼓を打ち鳴らします。



第42回杉並大宮菊花展

10月31日より11月23日まで第42回杉並大宮菊花展が開催されました。11月10日には杉並大宮菊の会主催のもと審査会が行われ、宮司賞以下が選定されました。第42回杉並大宮菊花展表彰式は12月15日に執り行われました。

第42回杉並大宮菊花展

第42回杉並大宮菊花展受賞者

宮司賞	国華越山	吉田 晴美
杉並区長賞	精興右近	櫛田 晃一
杉並大宮菊の会賞	国華重文	吉田 光治
大宮八幡宮責任役員賞	瀬戸の鷹	青木 弘次
京王電鉄賞	国華越山	松尾 和雄
サミット賞	新玉光院	吉田 晴美
サミット賞	国家金山	中村幸之輔
審査委員長賞	清見の入船	庄司 衛
金賞	精興彩処	山田 恭市



りんどう会だより

御境内清掃

9月9日、秋の大祭を控えて御境内の清掃が行われました。鎌田会長以下10名の会員の手により隅々まで掃き清められました。



氏子青年会だより

門松づくり

12月26日、年末恒例の門松づくりが行われました。社頭には立派な門松が飾りつけられ新年を迎える準備が整いました。



令和2年ご逝去されました役員、総代の皆様に感謝の誠を捧げ、御霊の安らかならんことを心よりお祈り申し上げます。

五本木徳治殿

大宮八幡宮責任役員 大宮地区

1月25日逝去

91歳

平成2年4月1日より当宮総代に就任、平成5年4月1日には責任役員に就任頂き、31年間当宮の運営にご尽力賜り、特に平成25年の御鎮座九百五十年式年祭には、奉賛会の実行委員長として多大なるご協力ご活躍を賜りました。また「大宮八幡宮みどりの会」会長として植樹祭や杉並大宮菊の会会長として菊花展に於ける区の後援と区長賞を申請されました。平成25年4月より杉並区神社総代会会長の重責を担われ、平成28年9月27日、第52回全国神社総代会において永年のご功績により表彰を受けられました。

梅田 博殿

大宮八幡宮総代 和田西地区

2月9日逝去

77歳

飯高今朝資殿

大宮八幡宮総代 和田西地区

3月1日逝去

94歳

青木 龍雄殿

大宮八幡宮総代 大宮地区

6月10日逝去

80歳

TVロケこもごも

- ・9月26日、YouTube「ロンブーチャンネル」田村淳様表参道駐車場にて新車の撮影と交通安全祈願
- ・11月13日、NHK「にほんごであそぼ」柳家わさび様(落語家)一畳ほどの台座を置き小噺を撮影
- ・11月17日、フジテレビ「Snow Man」ジャニーズ若手メンバー1名のインタビューを撮影
- ・11月24日、TBS「恋する母たち」木村佳乃様、吉田羊様、仲里依紗様、小泉孝太郎様、本多力様結婚式の風景撮影と境内ロケ

毎月お朔日参りに

月代り御幣守護を!!

当宮では古くより朔日(一日)、十五日に月参りをされる方が多く、こうした方々に年間を通じて八幡大神様のご神威をお受け頂こうと、毎月の朔旦祭に併せてお朔日参り大御幣振り神事のご祈願を奉仕して月代りの御幣守護を授与致しております。

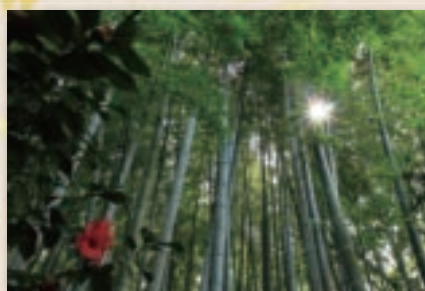
月毎にお申し込みの場合は初穂料三千円、年間一括でお申し込みの場合は初穂料三万円にて斎行させて頂いております。



大宮八幡宮

第7回フォトコンテスト入選作品発表

空司賞(最優秀賞)



『明日へ』 小竹秀雄

審査委員長賞(優秀賞)



『魂へ響け!!!』 笑い龍 小川明美

金賞



『神事』 畠山敏郎

銀賞

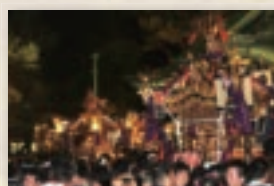
『ライオンちゃんとハグよ!』
上原正行

銀賞



『天神祭』 濱田文夫

銅賞



『宮入りの興奮』 新井一夫

銅賞



『威厳』 小島竜智

銅賞



『かがり火』 早川幸子

第7回大宮八幡宮フォトコンテストが開催され、大宮八幡宮の四季折々の風景や、祭礼行事を写し撮った15名、計48点の作品が寄せられました。8月27日には、杉本恭子審査委員長はじめ、宮司・審査委員の方々の厳正なる審査のもと、最優秀作品1点、優秀作品1点ほか各賞が選出されました。また、10月3日には正式参拝の後、大宮八幡宮清涼殿「亀の間」にて表彰式が行われました。各賞が次々に発表され、杉本審査委員長より講評、各作品のポイントや撮影のコツなどのアドバイスがなされました。なお、当日は夕刻より第20回十五夜の神遊びが行われ、受賞者の方々は、竹燈に照らされた境内を散策、しばしの撮影会となりました。



第8回フォトコンテスト作品募集

当宮の自然や行事風景を、プロ・アマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂きます。大宮八幡祭り(秋の大祭)期間中に展示し、ご参拝の皆様楽しんで頂きたく、昨年に引き続きフォトコンテストを開催致しております。

応募期間
令和2年8月1日～
令和3年7月31日

募集サイズ: 2L・4切サイズ

大宮八幡宮に係った作品であれば、風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。

応募作品は一人につき5点までです。

詳細は、社頭やホームページ上に要項をご確認下さい。

協力写真店

ホッタカメラ本店(浜田山)

フォトグラフィ光堂(大宮八幡宮入口)

カメラハウス本店(久我山)

※入賞作品の著作権は応募者本人に帰属しますが、使用权は主催者に帰属するものとし、展示や当宮の出版物・広報・インターネット等に無償で使用するさせて頂きます。(※各媒体掲載時には、氏名のみを掲載させて頂き

初宮詣芳名

(令和2年7月21日～11月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

安藤遙陽	德矢晉	渡邊啓吉	渡邊彰乃	曾根あかり	渡部雄太	藤島衣都	矢野雅	數原宙	佐藤由	矢島ゆづ	和田慧登	齊藤樹生	大塚明日香	前田煌矢	城戸ひかり	村上裕那	村上出花	龜井蒼生	龜井詩生	川島伊織	横山日帆	梅山紗帆	若浪風佑	泉州葵郁	淀川充生	岸田千紗	成田瑞希	川中摩耶	深澤らん	小川芽生紗	柴田蒼生	井上泰智	浅井統守	原田千聖	三原瑠子	相川瑠璃	大久保奏志	古橋葵太	横田蓮大	横田大葵	有馬拓希	樋口哲晃	佐野颯亮	金澤優真	村上夏佑	阿左美佑梧	河村一生	北島麻登	城谷遼	木谷巴南	足立振哉	石本溪吾	織原惟夏	藤原大翔	平林芽依	池田志步	矢野雅	矢野雅	藤島衣都	渡部雄太	曾根あかり	渡邊彰乃	渡邊啓吉	德矢晉	安藤遙陽
荒井佑里	杉田琉伊	岡崎智徳	兼田瑛菜	荒木斗真	中村葵士郎	飯笹樹季	荒尾侑輝	狩野風葉	大竹瑛乃	水野杏咲	飯塚柚	柳田恵菜	篠崎笑	鈴木悠友	網朝瑛羽	川合美結	塩谷帆夏	大沼花奈	鈴木緑	宮原貴太	山口凌功	北澤愛理	増元寿珠花	小九詩凰	櫻井咲人	鈴木太太郎	鈴野愛果	小佐野譲二	大野隼	外村果央	木村景依	相原悠伸	出野穂舞	渡辺穂久	藤巻充	児玉光太郎	江澤衣都	山口颯天	本田大翔	清水侑叶	田中康太	安達文	渡辺倫希	秋田康希	渡部颯太																				

町村英理	町村夏良	中川夏芽	遠藤翼	武藤蒼依	武藤浩紗	前田悠成	永石晴太郎	日下千嘉	井上大馳	関根之華	角田然	高野夏美	岩橋梨紗子	久永光利	奥澤玄詩	大塚光稀	古野叶菜	中山千紇	伊原颯佑	藤原紘	峰形葉	菅野蒼太	永野蒼希	川島文佳	平瀬波	吉田夏貴	渡邊涼	川川佳来	原田夏芽	黒沢祐月	木村楓香	本田蒼弥	伊崎ここね	戸崎直	直野青蘭	村越太一	中里史玖	氏家碧星	木原渚	堀越柚門	柴田雪月	久保美波	友田美波	徳武来弦	池田暖	佐々木乃々葉	小原悠哉	谷田悠路	西澤涼花	大塚晴道	重松色晴	青山恵大	吉澤朱優	宮本莉生	伴ふり夏	石井波月	寺澤弦辰	吉成仁希	岡崎湊
丹葉湊	丹治朱奈	山崎優	三浦芽依	下園美月	真央望結	楊原睦人	藤井瑛麻	石田優作	久重陽菜乃	安藤愛莉	今井月	森勢美	篠原日葵	藤本智遙	松本朱莉	森脇梨月果	大村美陽	浮桑百花	飯島平	大野紡希	水沼佳奈美	井上住奈美	豊田ひより	塚田旭	湯川美来	湯泉心晴	渡辺帆奏	向良琴	宮城律玖	矢作泰基	野村柚汰	野村梓	丸山耀史	瀨戸咲花	瀨戸歌歩	中代大智	中島瞬	三谷悠帆	安藤悠希	谷口葉	落合綾音	小林叶玖	野城史玖	宮川蒼佑	岡崎湊														
岡村夏良	中川夏芽	武藤蒼依	武藤浩紗	前田悠成	永石晴太郎	日下千嘉	井上大馳	関根之華	角田然	高野夏美	岩橋梨紗子	久永光利	奥澤玄詩	大塚光稀	古野叶菜	中山千紇	伊原颯佑	藤原紘	峰形葉	菅野蒼太	永野蒼希	川島文佳	平瀬波	吉田夏貴	渡邊涼	川川佳来	原田夏芽	黒沢祐月	木村楓香	本田蒼弥	伊崎ここね	戸崎直	直野青蘭	村越太一	中里史玖	氏家碧星	木原渚	堀越柚門	柴田雪月	久保美波	友田美波	徳武来弦	池田暖	佐々木乃々葉	小原悠哉	谷田悠路	西澤涼花	大塚晴道	重松色晴	青山恵大	吉澤朱優	宮本莉生	伴ふり夏	石井波月	寺澤弦辰	吉成仁希	岡崎湊		
佐藤琉月	前田真奈	大塚渚彩	一居一響	友塚琉花	友湖蒼白	高宮唯由	高橋泉未	杉生悠太	杉本理帆	赤井佑衣都	上原一真	近藤涼之介	縄田壮亮	高口權寿	八巻結仁	山田貴一	廣瀬歩	松本壮真	金原景音	阪本渚咲	高野駿	宮田一澄	小西真央	高橋正	高橋正志	武藤澄	稲毛杏奈	岡部佑真	池端千乃	新川誠空	原彩織	入江実香	湯山楓一	白井紗成	伊東晃佑	小野友寛	須崎楼工	三澤律子	松岡勇汰	飯塚大雅	堀江菜子	鈴木朝	仲真碧	坂田涼寿	坂田颯優	東奏介	松下明葵	宮本創	米山琴美	松永連矢	細田曉仁	加納怜磨	足立菜優	岩田怜子	藤岡奏汰	増野とわ			
武藤朝信	池本有梨花	市岡怜奈	鈴木晴乃	鈴木晴乃	高畑希奈	田浦凛乃	木村凜花	荒木凜花	渡邊奏多	稲葉奏	山本陽貴	岡政友起	奈良若陽	大塚蒼	平原碧人	海瀬元吾	北村海結	宮嶋瑠唯	岩井南奈	山本未来	佐藤優莉	小沢栞平	森田心葵	光岡聖菜	小濱晴也	遠藤祈花	門倉文	岩永琉未	樋口琥音	加藤蒼	阿部夏己	服部夏果	工藤優太	原口華英	渡邊結月	井上結葵	清水陽葵	坪田悠杜	成田衣織	角田柚乃	比田井號太郎	齋藤拓生	岡井玲桜	岡田瑛真	中塚漢太	馬場果歩	石川正護	関谷太沓	平山晴也	夏目侑奈	高田莉帆	下綯葵	白柿花菜	竹之内唯来	増野とわ				

誕生会

大宮幼稚園主任 丸山尚子

大宮幼稚園では 毎月一回、その月に生まれた園児をお祝いの誕生会が開かれます。園庭に全園児が集まり、胸に赤いリボンをつけた誕生児が、ちよっぴり恥ずかしそうに、でも誇らしげに笑顔で並びます。それから「お誕生日おめでとうございます。」とお祝いの言葉をもっい、一つ大きくなつ

た事を神社へ奉告に行きます。御神殿の中
ではお祓いを受け、「これから、神様に
見守っていただいて、いろいろな事に挑戦
していきますよ。」との神職さんのお話と
御守（心身健全の朱色の御守）をいただい
て園へ戻ります。年中・年少組は各保育室

へ、年長組は、ホールに集まって誕生会のスタートです。劇をしたりゲームをしたり質問に答えたり、先生方の手作りの冠やベルト、ペンダントをつけて、ニコニコ笑顔の誕生日。その後、皆でおやつをいただきました。年長組になると、誕生日のお母様をこ

招待して一緒に参加します。ホールに年長組全員が集まり、誕生児は、お母様と手をつないで入場し舞台上上がって、ポストくん（郵便ポストの形をしていて、子どもたち

ちが誕生児への質問カードを入れま



す」から届いた。くつかの質問(好きな絵本は？好きな遊びは？など)に、時にはじつくりと考えたりするの、思いをついたの、

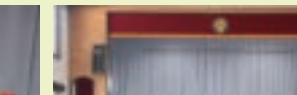
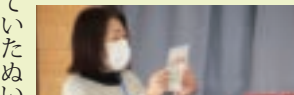
大きな声でマイク



ちが誕生児への質問カードを入れます）から届きたいくつかの質問（好きな絵本は？好きな遊びは？など）に、時にはじっくりと考えたりすぐに思いついたり、大きな声でマイク

片手に一生懸命答えます。最後に皆で「ウキウキバーディー」の歌を歌って各保育室へ戻り、お母様から赤ちゃんの頃の写真を見せてもらいながら、名前の由来や小さな頃のエピソードなどを聞かせていただきます。子どもたちも興味津々。「あつ、〇〇くんにだんだん似てきた!」「かわいい!」「私もアンパンマン好きだったよ」と大興奮。途中で「小さい頃にいつも持っていたぬいぐるみは何でしょう?」、ご兄弟の赤ちゃんの写真の中から「どれが本人でしょう?」などのクイズもあり正解すると大喜び。とても楽しい時間を過ごしています。誕生日は、子どもたちがこの世に生まれてきた大切な日。お母様方にとっても、おなかの中で慈しみ育ててこられたお子さんに初めて出会えたとても大切な日。お話を聞かせていただくとともに、子どもたちへの深い愛情が感じられて、私たちも温かい気持ちになります。

子どもたちには一つ大きくなった事を喜ぶと共にお祝いしてもらおう嬉しさ、そして、お母様に感謝する日として、心に残る一日になってもらえたらと思います。心に残る誕生会を行っています。赤ちゃんの時に、初宮参りで大宮八幡宮にお参りされた方もいるのではないのでしょうか。これから、神様に見守られ、健やかに育っていくことを願っています。



岩崎月葉 上地祐璃 神澤湊 西宮茅 宇津森勇翔 角義仁 南部楓来 和山芽依 塚田由夫 山口夏生 川崎楓夏 石井泰介 来栖奈未 佐藤彩心 赤堀文梧 坪井深月 藤垣すず 小貫明里 水島翼 田代曉人 前川好志 志鎌朱李 木水勇斗 小泉楓大朗 原結都 山本彩久 山本彩久 横山元 本間凌士 高橋真叶 山崎楓馬 青野通英 青田樹 山田千景 吉田帆ノ香 樋野巧美 村川風 玉川須晴 菅生夏留 布留川陽大 野間口凌 松山風汰 中野羽流 枝廣航大 野中晴仁 小松路 大室優太 千明未來 熊谷季造 高井信太郎 三枝律機 田中紇 谷野吉平 菅川美詩 青木美優 佐藤まなほ 松本拓真 神岡拓諒 今川旭 鈴木颯馬 鈴木颯馬 加藤淳 久保田向 西尾澤 岩崎大記 梶泰采 江口留一 渡邊結仁 柳澤迪花 田畑陽人 幸野凛之介 古太雄策 伊藤沙風 藤田陽葵 大谷恵永 立山真梧 中村渥 山本遥己 山本遥己 稲垣太逸 中島心葉 角南椋唯 北澤采佳 村井楓 長谷咲 山中悠詩 佐井宗佑 横山元 本間凌士 高橋真叶 山崎楓馬 青野通英 青田樹 山田千景 吉田帆ノ香 樋野巧美 村川風 玉川須晴 菅生夏留 布留川陽大 野間口凌 松山風汰 中野羽流 枝廣航大 野中晴仁 小松路 大室優太 千明未來 熊谷季造 高井信太郎 三枝律機 田中紇 谷野吉平 菅川美詩 青木美優 佐藤まなほ 松本拓真 神岡拓諒 今川旭 鈴木颯馬 鈴木颯馬 加藤淳 久保田向 荒川柚月 庄司実令 伊藤壮汰 伊藤優汰 宇井隆 三ツ橋果音 塩田利香 片嶋華望 中村葵 白井恭弥 齋藤篤志 梨本大馳 戸島美穂 相田雪来 吉田小夜 黒木玲杏 岩根未沙紀 元の香 榊田芽叶 矢内澤 遠藤吏紡 鈴木響 西川利央 室井美遥 小島壮平 片嶋華望 中村葵 白井恭弥 齋藤篤志 梨本大馳 戸島美穂 相田雪来 吉田小夜 黒木玲杏 岩根未沙紀 元の香 榊田芽叶 矢内澤 渡邊清正 坂本光飛 掛谷裕系 岡田詩絃 高荒草々 野澤楓人 山下瑠偉 菱倉聡二郎 白濱樹生 齋藤愛菜 宮崎史悠 青木創史 吉崎綾夏 國分美来 藤井淳子 原田利帆 矢作凜空 岡本裕朗 重田一樹 川本曉太 池田陸叶 二宮玲煌 中村颯仁 加藤花純 橋口依央 齊藤侑華 塚原陸斗 丸田紘都 平野航 神原鈴奈 田中夕利 津藤風翔 川崎曉仁 林衛菜 小笠原昊 川村にこ 柿澤寿明 橋口依央 齊藤侑華 塚原陸斗 丸田紘都 平野航 神原鈴奈 田中夕利

緑豊かな都心の杜で
絆深める和婚式

成人式 卒業式 衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(令和2年7月1日〜12月31日)

ガウタムスバス・神田史
松村岳人・良子
神山大輝・萌水
福田康平・沙織

藤林莉都 遠藤吏紡 岡本裕朗 津藤風翔
税所鈴 鈴木響 西川利央 川崎曉仁
朝妻音通 西川利央 室井美遥 小笠原昊
深澤弘福 室井美遥 小島壮平 川村にこ
三ツ橋果音 塩田利香 片嶋華望 中村葵
増本紇希 中村葵 白井恭弥 齋藤篤志
齋藤篤志 梨本大馳 戸島美穂 相田雪来
戸島美穂 相田雪来 吉田小夜 黒木玲杏
黒木玲杏 岩根未沙紀 元の香 榊田芽叶
矢内澤 渡邊清正 坂本光飛 掛谷裕系
岡田詩絃 高荒草々 野澤楓人 山下瑠偉
菱倉聡二郎 白濱樹生 齋藤愛菜 宮崎史悠
青木創史 吉崎綾夏 國分美来 藤井淳子
原田利帆 矢作凜空 岡本裕朗 重田一樹
川本曉太 池田陸叶 二宮玲煌 中村颯仁
加藤花純 橋口依央 齊藤侑華 塚原陸斗
丸田紘都 平野航 神原鈴奈 田中夕利

戌の日早見表 (令和3年1月〜5月)

5月	4月	3月	2月	1月
2日(日)	8日(木)	3日(水)	7日(日)	2日(土)
14日(金)	20日(火)	15日(月)	19日(金)	14日(木)
26日(水)		27日(土)		26日(火)

は大安の日です



戌の日詣りは
聖母大神・子育て八幡さまの当宮で
安産祈願祭を！

※戌の日以外でも随時お受けしております
ご祈願の方には安産腹帯(天宮八幡息長帯)と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



新春にはご祈願をお受けになり、^{さすが}清々しい1年に致しましょう
(新春初祈願祭は、2月2日の節分までご奉仕いたします。)



午前2時 宮司若水を供す



新春初祈願祭受付



新年のお守りを受ける

(祈願祭受付及び授与所は密をさける為、透明ビニールカーテンを下げ、職員もマスクをつけて対応致します。)

大宮八幡宮のホームページ

大宮八幡宮のホームページでは、祭典・行事の情報や、当宮で行われている新型コロナウイルス対策の情報を発信しております。
スマートフォンからもご覧いただけます。

スマートフォンからは、左のQRコードを読み取ってご覧いただけます。



大宮八幡宮のInstagram

当宮ではInstagramで境内の写真や行事などの写真なども公開しております。



スマートフォンからは、左のQRコードを読み取ってご覧いただけます。



新春の

代表的な授与品

千支土鈴(親子)



えんむすび守



交通安全守



幸福がえる絵馬



厄除守



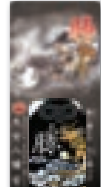
安産御守



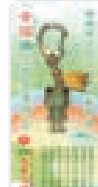
心身健全守



勝御守



幸福なでがえる守



幸福がえる守



大宮 第119号
令和3年 新春号
令和3年1月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話(3311)0105 FAX(3318)6100
Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp